

第58号【2010/2/1 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

## 巻頭言

### 「モンゴル - 草原と厳寒の国 - で 医者をする」

循環器センター 准教授 富田 英

#### イベント情報

富田准教授モンゴル国家勲章叙勲

医療安全研修会

医師の配属・異動・退職

外来担当表

患者さまへのお知らせ・お願い

北部病院、医療安全活動

診療統計



## 巻頭言

### 「モンゴル - 草原と厳寒の国 - で医者をする」



循環器センター  
准教授

富田 英

モンゴルと言っても大部分の方は、チンギスハーン、蒙古、元寇、羊などの言葉しか思い浮かばず、歴史または地理の教科書の中の世界なのではないでしょうか？現在のモンゴル国は、ソビエト連邦と期を一にして1924年、社会主義国として成立し、1990年に民主化された、蒙古帝国からの古い歴史を持ちながら、現在の体制はまだまだ発展途上の若い国です。人口は2008年の統計で約267万人、その約1/3、85万人が首都ウランバートルに住んでいます。平均高度、海拔1580メートルの高地国家で、国土のほとんどが草原と砂漠、夏の平均気温は17度、冬は-26度、最低気温は-40度を下回る厳しい自然の中にあります。GDPはUS\$1200/人、平均寿命は61歳、出生率は23.56/1000人、乳幼児死亡率は66.34/1000出生に達します。心臓病の、特に子どもたちにとっては優しい国とは言えず、ファロー四徴や大血管転位などのチアノーゼ性心疾患は大富豪か、よほどの幸運に恵まれない限り、治療の機会に恵まれることはなく、日本でなら治療の結果が出なければ訴訟沙汰になりかねない心室中隔欠損、動脈管開存などの単純心奇形も十分に生命を脅かすcritical diseaseです。

私たちのモンゴル国での小児循環器診療は、当時、島根医科大学小児科 小児循環器グループの責任者であった羽根田先生が、モンゴルから留学していた小児循環器医師の依頼を受けて、2001年秋、初めて同国を訪問されたことから始まりました。羽根田先生とは国立循環器病センター小児科同門の先輩・後輩として、また先天性心疾患に対するカテーテル治療に携わるものとして、親しくお付き合いさせていただいており、島根医科大学でのカテーテル治療をお手伝いした際に、モンゴル国の様子をお聞きしたことが、この活動に関わるきっかけとなりました。

2002年のクリスマスの頃が私のモンゴル国初体験でした。消耗品類が極端に不足していることから、人工心肺装置はあっても回路は無く、人工心肺を使った開心術は不可能、レントゲンはあってもフィルムは無いので記録は取れず、もちろんシネ撮影の出来る血管造影装置は無し、という状態で、ここで心臓カテーテルが出来ること自体、真冬の-30度を下回る寒さよりもショックだったのを覚えています。無影灯と手術台だけの手術室に、ポータブルの透視装置を持ち込み、簡易の血管造影室が出来上がりました。カテーテル類、輸液、抗生物質、造影剤などは全て日本から持ち込みました。透視は出来ませんが、記録は撮れないので、全員が目で見つめ1,2,3の掛け声とともに造影剤を注入し、診断と治療方針を合議制で決定してゆくという、ちょっと考えられない環境でのカテーテル治療でしたが、相当に重症の動脈管開存、肺動脈弁狭窄、大動脈縮窄などの治療を行いました。その後、モンゴル国でただ一台の血管撮影装置がある施設を紹介していただき、随分とハード面の医療環境は改善しましたが、年に一度の渡航では、なかなか先方での人材育成という所までは手が届かず、毎年、同じように重症なお子さんが私たちの所を受診します。この活動の事務局は、開始以来、島根医科大学支援のための組織である公益財団法人島根難病研究所に置いておりましたが、国内からこの活動に賛同していただける医師が随分と増えたこと、日本にもモンゴル国内にもこの活動を支援して下さる民間の方々とお会いしたこと、手弁当での年一回の渡航ではなかなかモンゴル国内で裾野を広げることが困難であることから、国内で支援して下さる方々の協力を得て、2008年全国組織のNPO Heart Saving Project (HSP)を設立しました。

羽根田先生による初めての渡航以来、日本全国有志からの草の根的な人的・財政的支援により2009年10月までに計10回、医療団を組織して渡航し、心エコー診断約920名、治療カテーテル188名189回（うち163名完治、18名ほぼ完治、6名改善）、診断カテーテル60名、モンゴル人医師を対象とした講義15回、症例検討会10回、地方都市での検診7回などを行ってきました。NPO設立を機に、渡航開始当初からの目標でありながらなかなか手が届かなかった、モンゴル国内への技術移転、すなわち、少なくとも診断とカテーテル治療の部分ではモンゴル国が独自の医療システムを構築してゆくための支援に力を入れて行こうと考えております。

この活動は特定の個人、団体などの支援を受けることはなく、多くの方々からのご支援金、寄付金、チャリティー活動による売上金によってまかなわれています。日本では何気なく行われていますが、医療にはやはりお金がかかり、金の切れ目が命の切れ目な状況に出会うことは日常茶飯事であり、経済的なバックグラウンドの確保は避けて通れない課題です。興味がある方は時間のあるときに、NPOのweb site <http://heartsaving.org/> を訪ねていただき、ご支援をいただければと存じます。

# 北部イベント

## 循環器センター富田医師 モンゴル国国家勲章 叙勲

平成 21 年 12 月 18 日、小児循環器センター富田 英准教授に、モンゴル国より、モンゴルと日本の文化および国際交流に高く貢献したとして、モンゴル国最高の国家勲章『北極星勲章 (Altan Gadas)』が叙勲されました。

富田先生は、10 年来ボランティアで同国の小児先天性心疾患のカテーテル治療を行い、また、NPO 法人 Haert Saving Project (HSP) の副会長も務められており、その業績に対して授与されました。

『北極星勲章 (Altan Gadas)』は、モンゴル国より外国籍の方へ授与される最高勲章です。

これまでの主な受賞者は、以下の方々です。

総理大臣：海部俊樹氏、森 喜朗氏、羽田 努氏

作家：司馬遼太郎氏、堺屋 太一氏

角 界：朝青龍関、白鳳関、日馬富士関

外務省：花田鷹公氏(前駐モンゴル大使)、市橋康吉氏(在モンゴル大使)

その他：笹川陽平氏(日本財団会長)、金川千尋氏(FEC 会長)

故池田恒夫氏(ベースボールマガジン社会長) 他



モンゴル大使館での  
勲章授与式

右：富田医師

左：G.ガンダンジャル外交通商大臣

## 医療安全研修会 ～コミュニケーションについて～

講演会や研修会という、講師の先生のお話を聞くというイメージがありませんか？参加者は着席し、聴講内容をメモに取っているイメージが浮かびませんか？今年度、安全研修は試みとして、演者が参加者に問いかけたり、参加者同士での意見交換や少人数で課題について話し合ってみるといった参加型研修会を企画しました。

2月2日(火) シリーズ3回目となる研修会を開催しました。『行きたい病院・行たくない病院。誰が守る北部の安全。信頼は関係づくりから』というテーマを掲げ、安全・安心な医療を提供するために必要不可欠となるコミュニケーションスキルの向上を目的に開催しました。

田邊千絵氏(株ハーティスト)を講師にお招きし、コミュニケーションについて多角的に教えていただきました。

「安全」とは人、もの、仕組みなどで創り出すもので、「安心」は人が創り出すものであり、この双方を創り出すカギは「コミュニケーション」にあると学びました。第1回目は、医療者間のコミュニケーションスキルを中心に、第2回目はお話しを聞く基本姿勢を中心に、今回はご意見(不満など)への対応方法について学びました。ご意見はどのような時に寄せられるのか(どうして発生するのか)、ご意見に対応する際の基本姿勢(対応のさしすせそ)、その方の心理の動きなどを演習しながら教えていただきました。また、気をつけて使いたい言葉などについても教えてもらいました。今更、言葉について？と思われそうですが、その言葉の与える印象や使う順番で、大きく対応に影響することを改めて確認する機会となりました。

最後にコミュニケーションとは、個々の習慣であり、すぐに習得できるものではなく、今日の学びをこれからの習慣に取り入れていく事で、一段レベルアップしたコミュニケーションスキルとなると学び閉会となりました。

参加した職員は多職種に渡りました。当院の職員同士とはいえ、あまり話したことのない職員との演習は、開始直後は照れや緊張感からごちない感じがありました。振り返ると、普段接する機会の少ない職種の職員と話ができて楽しく、貴重な機会だったとの参加者からの感想が聞かれました。



## 医師の配属・異動・退職

### 新規配属医師

【～2/1】

【他病院より】

小鷹 紀子 (消化器C)  
平成5年  
独協医科大学卒

【附属病院より】

行田 梢 (麻酔科)  
昭和大学医学部  
産婦人科学教室より

【配置転換】

細谷 寿久 (救急C 消化器C)  
和田 祥城 (消化器C 救急C)

吉田 典世 (救急C 内科)  
宮下 耕一郎 (内科 救急C)

【長期出張終了】

小形 典之 (消化器C)  
竹原 雄介 (消化器C)

森 悠一 (消化器C)  
小川 雄一郎 (泌尿器科)

及川 裕将 (消化器C)

### 異動・退職医師

【～2/1】

【長期出張】 石垣 智之 久津川 誠

工藤 孝毅 松平 真悟

山口 かずえ(消化器Cより)

【退職】 宮地 英行(消化器C)

小倉 麻耶(麻酔科)

# 外来担当表

外来予定は都合により変更する場合がございますのでご了承ください。

平成 22 年 2 月 1 日 改定

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
呼吸器センター	鹿間裕介 (初診)		中島宏昭 (紹介初診)		神尾義人 (初診)	鹿間裕介 (再診)	笠原慶太 (初診)		北見・澁谷 (初診)		医局員 (初診)
	笠原慶太 (初)	笠原慶太 (再)	井上七重 (初)	中島宏昭 (再)	鹿間裕介 (初)	北見明彦 (再)	鹿間裕介 (再)	神尾義人 (再)	中島宏昭 (再)	中島宏昭 (再)	
	北見明彦 (再)		鹿間裕介 (再)	澁谷泰弘 (再)				井上七重 (再)			
消化器センター	医局員	大塚和朗	田中淳一		和田祥城	和田祥城	里館 均	里館 均	大塚和朗	大塚和朗	医局員
	林 武雅 (予)		井上晴洋	井上晴洋	若村邦彦	若村邦彦	医局員	医局員	春日井尚	春日井尚	
	伊藤寛晃	出口義雄	櫻田博史	櫻田博史	医局員	遠藤俊吾	池原伸直	池原伸直	医局員	医局員	
	細谷寿久	細谷寿久		南ひとみ (限)	日高英二	日高英二			児玉健太	児玉健太	
	山村冬彦	山村冬彦	工藤進英		石田文生		櫻田博史	山村冬彦	遠藤俊吾		
循環器センター	磯村直栄		落合正彦		小原千明		荒木 浩		芦田和博		医局員
	星本剛一		山本明和		薬師寺忠幸		藤倉寿則	御子柴幸 (2)	斎藤重男		
	伊藤篤志 (精神全般)	黒子洋介 (血管外科)	上村 茂 (先天性心疾患)		伊藤篤志 (心臓血管外科)		富田 英 (先天性心疾患)		石野幸三 (心臓外科)		伊藤篤志 (心臓血管外科)
	富田 英 (先天性心疾患)		山下賢之介	富田 英 (先天性心疾患)					上村 茂 (先天性心疾患)		
メンタルケア (初)	堀 宏治 (精神全般 認知症)	堀 宏治 (物忘れ初診)	板垣太郎 富岡 大	板垣太郎 富岡 大	工藤行夫 (精神全般 統合失調症)	工藤行夫 (精神全般 統合失調症)	西岡玄太郎	西岡玄太郎	吉益晴夫	吉益晴夫	伊川太郎
メンタルケア (再)		富岡 大	青木麻梨	堀 宏治	堀 宏治	吉益晴夫	吉益晴夫	工藤行夫			菊地 優
メンタルケア (再)	板垣太郎	板垣太郎	石部 稔		西岡玄太郎	西岡玄太郎	伊川太郎	伊川太郎	田村利之		
メンタルケア (再)			青木麻梨		富岡 大		菊地 優				
内科 (22-5)		高橋 健 (内科腎臓)									
内科 (23-2)	吉田典世 (内科)	山本真寛 (内科)		土屋静馬 (内科)	菊嶋修示 (循環器不整脈)	菊嶋修示 (循環器不整脈)	土屋静馬 (内科)	武重由衣 (内科)	菊嶋修示 (循環器不整脈)		菊嶋修示 (循環器不整脈)
内科 (23-3)	衣笠えり子 (内科腎臓)	福井俊哉 (記憶認知)		戸嶋洋和 (内科)	衣笠えり子 (内科腎臓)	衣笠えり子 (内科腎臓)	坂下暁子 (内科血液)	坂下暁子 (内科血液)	中村裕紀 (内科神経)	川崎仁志 (内科神経)	医局員
内科 (23-5)	坂下暁子 (内科血液)	坂下暁子 (内科血液)	福井俊哉 (内科神経)	福井俊哉 (内科神経)	三代川章雄 (内科消化器)	吉田典世 (内科)	福井俊哉 (内科神経)	福井俊哉 (内科神経)	福井俊哉 (内科神経)	医局員	三代川章雄 (内科消化器)
内科 (25-1)	井上 学 (内科神経)		小林功治 (内科)		井上 学 (内科神経)		和田幸寛 (内科)		滝西安隆 (内科)		大野恭史 (内科)
内科 (25-2)		井上 稔 (内分泌・代謝)		竹島亜希子 (内科)	木村 聡 (内科・感染症)				小林功治 (内科)		医局員
内科 (25-3)	田口 進 (内科消化器)	成島道昭 (内科)	和田幸寛 (内科)	中山文義 (腎) (第1火休診)			田口 進 (内科消化器)		竹島亜希子 (内科)		渡邊浩之 (1,3 (内科))
内科 (25-5)	荻原 徹 (糖尿病、内分泌)		嶋田 顕 (内科腫瘍)	嶋田 顕 (内科腫瘍)	荻原 徹 (糖尿病、内分泌)		嶋田 顕 (内科腫瘍)	嶋田 顕 (内科腫瘍)	荻原 徹 (糖尿病、内分泌)		荻原 徹 (糖尿病、内分泌)
内科 (25-6)		伊東友弘 (内科腫瘍)	山崎貴博 (内科神経)	大野恭史 (内科)	女性専門外来 (予約のみ)	滝西安隆 (内科)	緒方浩頭 (内科腎臓)	成島道昭 (内科)	伊東友弘 (内科腫瘍) (第4休診)		緒方浩頭 (内科腎臓)
内科 (25-7)	宮下耕一郎 (内科)	宮下耕一郎 (内科)	辻 正富 (糖尿病、内分泌)	辻 正富 (糖尿病、内分泌)	伊藤英利 (内科腎臓)	伊東友弘 (内科腫瘍)			伊藤英利 (内科腎臓)		辻 正富 (糖尿病、内分泌)
小児科	梅田 陽	神経外来	梅田 陽	乳児検診	北澤重孝	心臓外来	梅田 陽	成育外来	梅田 陽	乳児検診	澤田奇・藤巻偶
小児科	富永牧子	予防接種	松岡 孝	7歳-7歳 外来	松岡/澤田	腎臓外来 (1,3,4)	澤田まどか	アレルギー-外来	松岡 孝	7歳-7歳 外来	三輪 (奇) 西岡 (偶)
小児科	北澤重孝		北澤重孝	血液内科 (4) 心理相談	富永牧子	心理相談	井上真理	口腔発達 (2,4)	大戸秀恭	上村茂 (心臓)	富永 (1,3) 上松 (2) 高橋 (4,5)
小児外科		鈴木孝明		大橋祐介		五味 明	心理相談	大橋祐介		鈴木孝明	鈴木孝明 (奇) 医局員 (偶)
皮膚科 (初 16-3)	保坂浩臣		宋 寛傑		上岡なぎさ		保坂浩臣		宋 寛傑		医局員
皮膚科 (再 16-1)	宋 寛傑		上岡なぎさ								
皮膚科 (再 16-2)	上岡なぎさ	外科手術		外来手術	医局員	外科手術	医局員	外来手術	上岡なぎさ	外来手術	医局員
皮膚科 (再 16-2)			保坂浩臣		奥村恵子		奥村恵子		保坂浩臣		
外科	中村明央 (第3以外)	中村明央		杉本啓一 (3)	新井一成		新井一成	井関雅一 (偶) 岩波正英 (3)	中村明央	岩波正英 (第2,4)	中村明央 (奇) 新井一成 (偶)
外科			福成信博		山崎智巳			兼坂 茂 (予約のみ)	福成信博 (1,2,3,5)	中村明央	福成信博 (奇) 山崎智巳 (偶)
外科	福成信博 (1,2,4初)										
形成外科	大塚尚治	ピ-リンク	【手術日】		小原英里		手術日		大塚尚治 信太 薫		信太 (1,5) 大塚 (1,3) 小原 (2,4)
緩和ケア (麻酔科) (22-6)		岡本健一郎 (事前予約制)			岡本健一郎 (事前予約制)						岡本健一郎 (事前予約制)
脳神経外科 (初再診)		小林信介 (偶)	池田尚人 (予約のみ)	【手術日】					藤島裕文		医局員
脳神経外科	池田尚人	池田 (診断書外来)	紹介状のみ (初)	【手術日】	池田尚人	池田尚人	松本浩明	松本浩明	池田尚人	医局員	医局員
整形外科	医局員	逸見範幸	医局員 (初)	川崎恵吉	医局員 (初)	中村正則	医局員 (初)	三雲 仁	医局員 (初)	尾又弘晃	医局員
整形外科		装具診 予約のみ	三雲 仁	米屋泰右	逸見範幸	装具診 予約のみ	三雲 仁	古槻 (2,4)	逸見範幸	骨粗鬆症外来 (2,4)	医局員
整形外科	米屋泰右		西山嘉信 (予)		尾又弘晃		中村正則	松岡 彰	中村正則		
整形外科	川崎恵吉		大下優介				川崎恵吉		大下優介		
産婦人科 (初診 12-7)	佐々木康 (吉江/新城)		高橋 諄		高橋 諄		小塚/安藤 (吉江正紀)		小川公一		医局員
産婦人科 (産科 12-1)	宮上 哲		小川公一		佐々木康		新城 梓		吉江正紀		
産婦人科 (産科 12-6)	徳中真由美				遠武/前田		徳中真由美		安藤直子	特殊診 予約のみ	
産婦人科 (婦人科 12-8)	小川公一		佐々木康	特殊診 予約のみ	吉江正紀		高橋 諄		新城 梓	特殊診 予約のみ	医局員
産婦人科 (婦人科 12-6)	徳中真由美		安藤直子		遠武/前田		徳中真由美		宮上 哲		
泌尿器科 (初診 11-1)	永田将一		初診輪番	丸山邦隆 (予約のみ)	奥村太輔	小川雄一郎 (予約のみ)	井上克己	前田智子 (予約のみ)	島田 誠		医局員 (初再診)
泌尿器科 (再診 11-3)	島田 誠	島田 (女性外来 予約のみ)		奥村太輔 (予約のみ)		井上克己		永田将一	椎木一彦	井上 (検査) 予約のみ	
泌尿器科 (検査 11-5)				術後1ヶ月診							
眼科	岡本幸子	特殊診 (岡本)	小池正直	特殊診 (岡本)	後藤洋平		小池正直	特殊診 (小池)	後藤洋平		小池正直 (奇) 南 雅之 (偶)
眼科	南 雅之		南 雅之	特殊診 (南)	岡本幸子		後藤洋平	特殊診 (後藤)	南 雅之	特殊診 (南)	岡本幸子 (奇) 嶋田撰也 (奇) 後藤洋平尾 (偶)
眼科	嶋田撰也	特殊診 (嶋田)	岡本幸子				嶋田撰也	特殊診 (嶋田)	嶋田撰也		
耳鼻咽喉科 13-1	門倉義幸 (初診)	腫瘍甲状腺外来 予約のみ	医局員 (初診)		医局員 (初診)		篠 美紀 (初診)	櫛橋幸民 (再)	医局員 (初診)		医局員 (初診)
耳鼻咽喉科 13-2	山田良宣 (再)		高橋 郷 (再)				門倉義幸 (再)	門倉義幸 (再) 2,4 予約のみ			
耳鼻咽喉科 13-3	篠美紀 (再)										
耳鼻咽喉科 13-3						補聴器外来 K 予約のみ				補聴器外来 N 予約のみ	

放射線治療の外来日は、月火水金：腫瘍第二医師です。

リハビリ科外来日は、火曜日午後：夏野実医師です。

奇=奇数週

偶=偶数週

数字=診察日 週 限=限定

# 患者さまへのお知らせ・お願い

## ロビーコンサートのお知らせ

- ◆ 3月12日(金) 池内 光子さん(アコーディオン演奏会)
  - ◆ 26日(金) 丹羽 千夏さん他
- 中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しください。  
コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。

## 北部病院、医療安全活動

### 「お医者さんへの上手なかかり方」リーフレットの紹介(横浜市医療安全支援センター作成)

北部病院では、来院される患者さまやご家族の方に安全な医療を提供できるよう日々努力をしております。受診の際、先生に自分のこんな症状を伝えてアドバイスをもらおう、質問したい事項などを準備していても、いざ診察室へ入ると緊張してしまい、うっかり質問を忘れて、診察が終わってしまったという時もあるかと思えます。

そこで、当院に限らず、医療機関を受診される際に、どの医療機関でもどなたでもご利用いただけるリーフレットが横浜市で作成されましたのでご紹介させていただきます。

総合案内脇に設置しておりますリーフレットラックや初診受付等で配布できるように準備を進めています。また、今後、北部病院バージョンの作成を進めていく予定です。

これは問診表ではございません。必要な時にメモとして気軽にご利用ください。

### 横浜市医療安全支援センターホームページより紹介抜粋

リーフレット作成の目的は、患者さまと医療機関とのコミュニケーション向上および患者啓発です。

作成に際して、市民の方々や横浜市医療安全推進協議会(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、弁護士、市民の方々で構成)で貴重なご意見をいただいております。

患者さまが、「病気に対する不安」「自分の気づき」「医師の説明」などについてメモ形式で書き込めるようになっており、コミュニケーションツールとして活用できる内容になっています。また、患者さまが自分自身の病気に対する理解を深め、主体的に治療に参加することの重要性について啓発する内容になっています。

このホームページから、リーフレットのダウンロードをすることができます。



リーフレット(表紙面)



リーフレット(内面)

## 診療統計

### 2009年11.12月統計データ( )内は1日平均

診療実日数 入院・・・30日(11月)・31日(12月) 外来・・・22日(11月)・23日(12月)

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
11月	29,531人(1,342.3人)	16,364人(545.5人)	348件(11.2件)	541件(30.1件)
12月	32,185人(1,399.3人)	16,619人(536.1人)	359件(11.6件)	554件(29.2件)

### 編集後記

新型インフルエンザの猛威に脅かされた昨年でしたが、年が明け、その流行も終息方向にあり、ホッとするとところ。朝、いざ出勤!!と玄関を出ると、ぴっしりと真っ白い霜に覆われた車のフロントガラスが目に入り、立春とは言えど、やはり大寒なのよね、と寒さから肩が上がります。それでも、視線をさえ、何気なく街の木々を見やれば、白や紅い梅の花がほころび始めています。春は着実に近づいているんですね。

さて、病院だよりですが、平成14年8月に創刊号を発行してから、8年目に入り、58号まで発行を進めることができました。来年度は、カラーで印刷が出来たら良いなと委員会で検討しております。センスの良い配色にするには、と勉強をしているところ。 広報委員会 委員 堀ノ内陽子

北部病院だより 第58号

平成22年2月1日発行

発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 高橋 諄(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。